

第4回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

東青地区：令和8年9月10日（木）県総合社会教育センター

参加者12名

上北地区：令和8年9月24日（木）三沢市国際交流教育センター

参加者32名

1 内 容

【講 義】「気になる子どもの理解と対応」

講師 青森県発達障がい者支援センターDoors

センター長 ぶんばい 分枝 あつし 篤史 氏

【演 習】「あおもり親楽プログラムⅡ」

進行 県総合社会教育センター職員



【経 歴】

6年間、宮城県仙台市の知的障害者更生施設で勤務したのち、平成23年に社会福祉法人豊寿会 妙光園に勤務。妙光園では、放課後等デイサービスで自閉症支援や管理者等を歴任し、平成26年に社会福祉法人 豊寿会 理事長、妙光園 園長に就任。平成28年より、社会福祉法人 豊寿会 青森県発達障がい者支援センターDoors センター長に就任している。

法人経営・運営の他に、三八管内スクールカウンセラー等を兼任し、発達に偏りのある当事者及び保護者の相談の他、学校現場や保育園等で子どもとの関わりに関するコンサルテーション、発達障害や子どもの発達、子育てに関する講演等を行っている。

【講義趣旨】

- ・子どもとは、「脳や身体が発達途上にある存在」である。
- ・子どもと関わる上で最も大切なことは、子どもの目線（目と耳と心）で物事を観察し、考えることである。
- ・指導しても何度も問題行動を繰り返す子どもたちの背景には、乳児期、幼児期、児童期で獲得すべき発達課題と育ちのテーマを乗り越えられなかった、親に安心して気持ちを伝えられなかった等の要因がある子も多い。
- ・「発達障害」とは、生まれつきの脳の働き方の違いによって、物事の感じ方・考え方・行動の仕方に特徴があり、環境との組み合わせによって生活のしづらさが生じる状態をいう。大切なのは、その子を普通に近づけることなく、安心して自分らしく育てる環境を整えることである。
- ・発達とは白黒ではなく、誰もが連続性の中にある。大切なのは「グレーかどうか」ではなく、どんな色合いをもった子か、「パステルカラー」の視点で一人ひとりを理解することである。
- ・「気になる大人」から「気かけられる大人」へ。大人の理想に近づけようとするのではなく、子どもたちのありのままを受け止め、理解することが大切である。

2 受講者の感想

- ・改めて、子ども達に寄り添うとは何か、親に寄り添うとは何かを考えることができました。一生懸命すぎて、何が一番大切か忘れがちになることもあるということを、心にとめておくことが大事だと思いました。
- ・子どもと関わっていくにあたって大切な姿勢、視点を学ぶことができました。子どもに過度な期待を向けるのではなく、ありのままの姿を受けとめていけるよう頑張ろうと思います。